

お祭りごっこで賑やかに



10月18日は三野町の芝生祭りでした。昔は大勢の子どもたちで賑わったお祭りも、子供が少なくなってきたことから、最近では活気がなくなりつつあります。

そこで、地域のお祭りを少しでも盛り上げようと三野保育所の子どもたち106名が、武大神社までおみこしを出して練り歩きました。「元気で大きくなりますように」とみんなでお参りし、地域の人たちもかわい子もたちの姿を、喜んでいただきました。

東祖谷で文化交流



第5回東祖谷文化まつりが、10月17日に東祖谷歴史民俗資料館で開催されました。会場には、書道や押し花、絵画のほか、児童生徒の作品などが展示され、訪れた人はじっくりと見入っていました。

また舞台では、踊りやカラオケ、東祖谷の民謡などが披露されたほか、市内文化協会各支部の団体も出演し、華やかに文化交流が図られました。最後には出演者が阿波踊りで登場し、観客も出演者も一体となって盛りあがりました。

毎年恒例のお楽しみ行事



山城町の天神山境内において10月10日、「祖谷口の秋フェスティバル2010」が開催されました。前々日から続いていた秋雨も開会頃には上がり、さわやかな秋空の下、カラオケや餅投げ、フォークライブコンサートや地元中学生による生バンド演奏などで大いに盛り上がりました。この催しは、「祖谷口チャレンジ21」が中心となり下川天神クラブ・自治会・婦人会・桜会・他有志の皆さんによる協力により毎年体育の日の前日に開催されています。

まちかど フォト ニュース



おもしろいこと、珍しいもの、
どんなことでもいいので耳より
な情報をお知らせください。

三好市役所 秘書広報課
☎0883-72-7646

お友達いっぱいできたよ

幼稚園や保育所に通っていない子ども達の運動会、はぐくみ運動会が10月8日に池田総合体育館で開催されました。

近い歳の子もたちと触れ合うことで、刺激になったり、親子共に友達を増やすいい機会になったと参加者は喜んでいました。運動会では、玉ころがしやパン食い競争など様々な競技に挑戦し、頑張る子どもたちと、カメラやビデオの撮影に頑張る保護者として、体育館の中は熱い空気でいっぱいでした。



全国から同人作家が集合



三好市出身の小説家、富士正晴氏にちなんだ全国同人雑誌フェスティバルが、10月30日と31日にサンリバー大歩危で開催され、全国から約200人の参加者が集まりました。

フェスティバルでは富士正晴同人雑誌賞の表彰式が行われたあと、直木賞作家の阿刀田高さんによる「小説家の頭 アイデアを探せ」という演題での講演や、同人雑誌の代表者らによるシンポジウム、翌日には全国同人雑誌最優秀賞「まほろば賞」の公開選考会も行われました。

初歩から学ぶ選挙スクール



選挙に関する基礎学習、投開票の模擬講習を通して、将来の有権者である生徒に選挙への親しみを感じてもらおう「初歩から学ぶ選挙スクール」が10月28日に山城中学校で開催されました。

2体のマスコットキャラクターを候補者に見立て、応援演説が行われたあと、本物の投票用紙や記載台、投票箱を使い模擬投票を行いました。開票作業も実際の流れに沿って当選者を決定し、生徒たちは選挙に関心を持つことができました。

伝説や郷土芸能が一斉に



祖谷平家まつりが10月1日から31日まで開催され、各地で多彩な催しが行われました。

24日にはかずら橋イベント広場で平家落人伝説を題材にした創作劇や郷土芸能が披露されました。劇は地元住民グループ・祖谷18人会のメンバーらが演じ、夏から練習を重ねた成果を発揮した、堂々とした演技でした。最後には鎧姿の平国盛や安徳帝らが会場を練り歩く武者行列も行われ、市内外から訪れた多くの観光客らが楽しみました。

歩いて元気になろう



活き活きとした人生を活動的に送るため手軽に取り組めるウォーキングをしようと、いけだスポーツクラブが10月10日に、みよしスポーツフェスタ2010を開催しました。

市池田総合体育館を出発し、丸山公園やうだつの町並みを巡り、一緒に歩く指導員から、楽しんで続けられるウォーキングの指導を受けながら歩きました。池田総合体育館にゴールした後、健康チェックや体力測定、食事バランス指導など医学的な情報も提供されました。

登録有形文化財が誕生



市報8月号で紹介しました、文化審議会が文部科学大臣に登録有形文化財とするよう答申した、山城町大川持の「旧川口郵便局局舎及び主屋」、池田町川崎の「百年蔵旧酒蔵」「百年蔵煙突」が、9月10日付けで正式に有形文化財に登録されました。

これを受けて、10月7日に倉本三好市教育長より、各所有者の方に登録証と登録プレートを、登録有形文化財の前で手渡し、改めて登録のお祝いをしました。

紅葉の名所で水車掛け替え



山城町の紅葉の名所、半田岩にある水車が10月7日、半田岩保存会によって10年ぶりに掛け替えられました。今年の春に主軸が折れ、動かなくなっていたようですが、保存会のメンバーが秋の紅葉シーズンまでにと、組み上げました。水車は明治時代からあったそうで、保存会がこれまでも掛け替えや補修をしているそうです。直径約3メートルの大きな水車が、紅葉の素晴らしい周辺風景に馴染み、情緒豊かな景色になることでしょう。